

科目名称：	子ども家庭福祉	
担当者名：	中村 明成	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>今、「子ども」を取り巻く環境は、社会・家族形態の変化によって、より多様化しています。その中で、いわゆる『子どもの権利擁護』（「子ども」を一人の「ひと」として大切にすること）が「子ども」とかかわる私たち大人・保育者に、何より求められています。「児童家庭福祉」とその周辺の課題を体系的にまとめながら、現在そして将来の「子ども」について、共に考察していきます。また、課外活動にも参加し、実際の「子どもの姿」を実感することも大切にしていきます。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>現代の子どもの実情を把握し、保育者は、どうかかわっていけばいいのかを理解する。子どもをありのままに受け止め、どんな子どもも認められるような資質を養成する。これからの学びで「子ども像」から「子ども観」へとつなげていく。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)	60		40		100
幼児教育DP (3)					0
幼児教育DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 障害者支援施設支援員	《経験年数1》 11年10か月
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 「子ども」が生きている現代社会の課題・世界の現状（子どもについてのディスカッション）	教科書を読んでおく	40分
第2回 「少子高齢化」問題と家庭・家族形態の変化と現状	少子化についてのプリントを読んでおく	30分
第3回 児童家庭福祉の理念と歴史の変遷、及び制度・児童福祉法を中心とする法体系	教科書チャプター3を読んでおく	30分
第4回 「子ども」が生きている現代社会の課題・世界の現状の権利擁護の歴史の変遷と「子どもの権利条約」	「子どもの権利条約」のプリントの読み込み	30分
第5回 児童家庭福祉サービスの仕組みとその内容	教科書チャプター4を読んでおく	30分
第6回 「児童虐待」「DV」の現状と理解	教科書チャプター7を読んでおく	30分
第7回 「児童虐待」「DV」の理解と対応（資料VTRについて考えをまとめ、グループで話し合う）	「児童虐待」についてのプリントの読み込み	30分
第8回 「保育」の多様性と保育士の社会的役割	教科書チャプター5を読んでおく	30分
第9回 子育て支援サービスの内容と実際	教科書チャプター5を読んでおく	30分
第10回 しょうがいのある子どもの保育・福祉サービスの実際	教科書チャプター9を読んでおく	40分
第11回 「療育」「母子保健」などの他領域との連携のあり方	教科書チャプター9を読んでおく	40分
第12回 近年の施策と児童福祉法改正・次世代育成支援の意	教科書チャプター4を読んでおく	30分
第13回 児童家庭福祉の将来像（特に最近の子どもの貧困問題を中心に）	教科書チャプター6を読んでおく	30分
第14回 保育者としての児童家庭福祉のあり方	「保育」についてのプリントを読んでおく	30分
第15回 講義のまとめと課題学習	授業全体を振り返りまとめておく	50分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、教科書の該当するチャプターを読み込む。事前に配付したプリントを学習する。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
毎回授業でレポートを作成する内容40%

課題に対するフィードバック

授業で毎回作成するレポートは、添削し評価し返却する。

教科書・参考書

みらい×子どもの福祉ボックス 「児童家庭福祉」 喜多一憲 監修 (株)みらい